

## お茶高-戸山高理系女子育成連携事業



### 「女性研究者にインタビューしてみよう」②

この事業はお茶の水女子大学附属高等学校と本校の生徒が組んで女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校、全国の理系を志す児童、生徒のみなさんに向けて発信するプロジェクトです。

今回は物理コース1年生2名が令和6年7月3日、宇宙飛行士の山崎直子先生にインタビューした記事をご紹介します。



私たちは、お茶の水女子大学附属高等学校の方々と共同で宇宙飛行士の山崎直子先生にインタビューをさせていただきました！他の人からはたくさんの聞けないような面白いお話や、説得力があり勇気がもらえる私たちへのアドバイスを聞くことができたのでここではそれらを紹介したいと思います。

#### Q&A

Q. 宇宙に行って感じたことはありますか？

A. 無重力だとどんな姿勢にもなれるので、地球が正面や頭上にあるという状況があり、地球と心から向き合っているように感じました。また、国際宇宙ステーションがきれいに見えたことも記憶に残っています。

Q. 地球に戻ってきた後はどう感じましたか？

A. 重力の重さを体感し、「重力って、こんなに重いんだ」と驚きました。1時間ほどはうまく歩けず、フラフラした状態でした。また、1年間宇宙にいた船員は、1日中うまく歩けなくて、45日間かけて筋肉や骨を鍛えなおすものや、バランス感覚を宇宙に行く前に戻すなどのリハビリをしていました。

Q. ほかの惑星に移住することは可能だと思いますか？

A. 結論としてはできると考えています。しかし、人類、地球人全員が移住ということではなく、今の地球のバックアップのようなものとして使われるようになって考えます。地球は水や空気が循環していて、磁場が小さくて酸素がすぐに逃げてしまう火星などのほかの惑星と比較して特殊なので、まずは地球を大切にすべきだと思います。

#### 山崎直子先生について

1970年に千葉県松戸市に生まれ、お茶の水女子大学附属高等学校、東京大学工学部航空学科、大学院を卒業。その後、2001年に宇宙飛行士として認定。2006年にはNASAより搭乗運用技術者（MS）として認定され、2010年にSTS-131(19A) ミッションにMSとして参加。2011年にJAXAを退職した後、2012年に内閣府宇宙政策委員会委員、2018年には一般社団法人Space Port Japan 代表理事として活動。

## 高校生へのアドバイス！

今までの経験やこれから経験していくことが思いがけないところにつながっているし、今想像している世界がすべてではなくもっとずっと広いから、いろんな経験をしていくと良いと思います。正解のない問題にぶつかったときは、どちらが正解だろうと迷うのではなく、自分が歩く道が正解になるように、自らの道を開拓して行ってください。応援しています。

また、理系女子はまだまだ少なく、企業や研究機関が欲しているので今がチャンス！頑張ってください！



今回のインタビューで、実際の宇宙に対する理解が深まり、理系女子の希少性や、経験の大切さを改めて実感しました。また、最後のアドバイスは特に私たちの心に響き、勇気をもたらすことができました。今後、自分自身の研究をしていく中で行き詰まったときや不安になってしまったときもこの言葉を思い出して頑張ります！

- 山崎直子先生、インタビューへのご協力ありがとうございました！ -